

茨城

民主党と維新の党が合流した「民進党」が27日、発足した。県内組織としては民主党県連が看板をかけ替える形になる。7月の参院選が迫り、衆院選との同日選も取りざたされるなか、県内の党関係者は国政選挙に向けた準備を急ぐ考えだ。

東京都内で開かれた大会には、民主党県連からも幹部が出席。幹事長の長谷川修平県議は「20年慣れ親しんだ『民主党』から変わった党名が、浸透するかが一番心配な点だ。安倍政権や

自民党との違いも訴え、汗をかかなければならぬ」と気を引き締めた。

県内の参院選は、改選2議席を自民と民主が長らく分け合ってきた。衆院選に向けては、自民が県内七つの全小選挙区で現職が立候補する見通し。一方、民主党は4小選挙区で立候補予定者が決まっていない。県連会長の郡司彰・参院議員は「今日を境に、民進党としての候補者選びを加速させる」と話した。

れ、2014年の前回選で小選挙区としては県内唯一の民主当選者だった5区の大畠章宏氏が引退を表明。後継に同じ日立製作所労組出身で33歳という若さの浅野哲氏が決まった。組織票

国政選挙へ準備急ぐ 民進党発足 党名浸透に心配も

が見込めるとはいっても、党関係者は知名度の低さに危機感を持つ。1区は現職の福島伸享氏が準備を進めるほか、6区は前回選で落選した元県議の青山大人氏が立候補予定者に内定した。

前回の衆院選で3区から

維新の党公認で立候補して落選した元衆院議員の石井章氏は、昨年の同党分裂後に「おおさか維新の会」に合流。今夏の参院選で比例区の立候補予定者として公認を受けた。

(酒本友紀子)